

平成 28 年度 事業報告書

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

公益財団法人 前川財団

目 次

I 事業	1
1 事業の概要	1
2 事業の状況	1
(1) 平成 28 年度助成事業（定款第 4 条 1 項 1 号事業）	1
(2) 平成 28 年度研修会事業（定款第 4 条 1 項 2 号事業）	4
3 体制の整備	7
II 庶務の概要	7
(1) 理事及び監事に関わる事項	
(2) 評議員に関する事項	
(3) 選考委員に関する事項	
(4) 職員に関する事項	
(5) 諸規程に関する事項	
(6) 会議等に関する事項	
<理事会>	8
① 平成 28 年度第 1 回理事会	
② 平成 28 年度第 2 回理事会	
③ 平成 28 年度第 3 回理事会	
④ 平成 28 年度第 4 回理事会	
⑤ 平成 28 年度第 5 回理事会	
<評議員会>	8
① 平成 28 年度第 1 回評議員会	
② 平成 28 年度第 2 回評議員会	
(7) その他重要事項	9
① 許可、認可、承認、証明に関する事項	
② 契約に関する事項	
③ 寄付金に関する事項	
④ 行政庁からの連絡事項等	
III 業務の適正さを確保するための体制の整備についての決議の内容の概要	10
IV 附属明細書	10

I 事業

1 事業の概要

公益財団法人前川財団（英文名 Mayekawa Foundation）は、平成 26 年 4 月 1 日に設立され、平成 27 年 1 月 16 日をもって内閣府より公益財団法人への移行認定を受けた。当財団は、定款に掲げる、家庭・地域社会の教育とりわけ日本の伝統的・文化的な家庭・地域社会の教育の研究及び実践を支援し、また、その精神を現代の子育て・教育環境に反映させていく方策の探求及び実践を通じて、失われつつある日本型共同体の再建を図り、そこで育まれた優秀な人材を世の中に輩出していくことをもって、永続的な日本の発展に寄与し続けることを法人の目的としている。この目的を達成するため、家庭・地域社会の教育に関する研究及び実践を支援する助成事業、家庭・地域社会の教育に関する一般への普及と啓発を旨とする研修会事業を行っている。

公益財団法人移行後、第二期にあたる平成 28 年度は、設立時より承継する財団の趣意と目的の達成に向け、事業の確実な継続と適正な運営を基本とし、計画に従って以下の方針で事業活動を行った。

1. 家庭・地域社会の教育に関する研究及び実践活動の活性化促進、助成事業の応募と内容を拡充する広報活動の強化を図る。
2. 採択研究及び実践の進捗と収支状況を確認する中間調査・視察の実施と成果確認強化。
3. 研修会事業（シンポジウム等）で得られた、家庭・地域社会の教育に関する幅広い社会的要請に応える活動の展開、助成成果を一般に発信する企画の策定と実施。

2 事業の状況

(1) 平成 28 年度助成事業（定款第 4 条 1 項 1 号事業）

<募集および応募>

平成 28 年度は、助成事業の申請拡大と研究・実践内容の充実を具体的な目標とした。前年度募集の結果を踏まえ、医学、教育史学、発達心理学、地域、江戸学や、保育、幼児教育等の幅広いテーマに対応するために、理事会の承認を得て、事業計画において助成額を増額し、総額 1,800 万円程度、1 件あたりの目安は 50 万円～100 万円とした（平成 27 年度総額：1,500 万円程度）。

募集：平成 28 年 4 月 1 日より財団のホームページに応募要項を公示し、併せて教育関連の各方面への広報活動を行い、助成事業の周知に努めた。

1. 保育・子ども・幼児・児童教育学科のある全国約 160 の主要大学・短大への DM
2. 都内及び近郊幼稚園・保育園約 100 園への DM 及び 30 園の訪問
3. 教育関連主要学会及び自治体（文京区・豊島区）への広報活動（DM、訪問）

応募の結果：平成 28 年 7 月 15 日～8 月 15 日の申請期間で、ホームページを介した電子申請による受付で、応募総数 75 件、申請総額は 5,709 万円 と、前年を上回る申請を受理した。

（前年度応募総数：36 件、応募総額：2,435.5 万円）

<選考および採択>

受理した申請は事務局で集約し、理事会で選定・承認された選考委員による第一次審査及び第二次審査（選考委員会）を行った。選考委員の名簿は 7 頁に記載、HP 上で公開している。

第一次選考：事務局が集約した研究・実践内容及び助成対象費目等の詳細が記載された申請書類及び補足資料を各選考委員の閲覧に供し、別途定められた期間内で第一次審査（WEB 審査）を行った。

第二次審査：第一次審査の結果を集約し、8月31日開催の選考委員会で第二次審査を実施した。

採択結果：同選考委員会において選考委員合議の上採択者を決定した。応募が多数であること、有意な研究・実践の増加が勘案され、当初計画の助成総額を上回る採択結果となった。

採択 31 件、採択総額 1,994 万円（前年度 採択 24 件、採択総額 1,341 万円）

本助成対象者は、9月2日開催の第3回理事会において承認された。

最終応募と採択数、助成額の内訳を以下に示す。

家庭・地域社会教育 研究助成	応募 件数	助成採択件数		助成額	(計画目標)
		新規	うち継続		
研究助成	65	27	9	¥ 17,140,000	(20 件、1,400 万円)
実践助成	10	4	—	¥ 2,800,000	(5 件、 400 万円)
合計	75	31	9	¥ 19,940,000	(合計、1,800 万円)

※助成採択者の一覧は 3～4 頁に掲載している。財団ホームページでは、採択者氏名・所属・課題テーマを公開し、一般の閲覧に供している。

<通知、助成金交付>

第 3 回理事会の採択承認後、申請者にすみやかに電子メールで採択結果を送付し、助成金の交付は、次の通り、所属機関等の受け入れ確認処理を経て 3 回に分けて行い、振込通知及び助成金の使途要領等の送付をもって受領確認として、全件の交付手続きを完了した。

助成金交付日（振込日）	振込金額	件数
2016 年 9 月 12 日	¥ 14,740,000	23 件
2016 年 9 月 30 日	¥ 3,550,000	5 件
2016 年 10 月 28 日	¥ 1,650,000	3 件
合計	¥ 19,940,000	31 件

<前年度助成の成果評価>

平成 27 年度助成の成果報告については、7 月 31 日の報告期限までに提出された成果報告書・収支報告書と領収書、添付資料により、事務局が費目の合致、助成金費消状況を調査して一覧に集約した。

集約結果と成果報告資料は、WEB により選考委員の閲覧に供し、平成 28 年度助成の選考前までの期間を定めて、各選考委員が成果及び計画達成度等の評価と講評を行った。

本成果評価は、各採択案件に対する今後の継続推奨に加え、助成方針の明確化、顕著な成果が認められる研究・実践の発表など、今後の社会発信に活用することを目的としている。さらに研修会事業での登壇や、若手研究者の助成拡大とステップアップ等のきめ細かな助成のベースとするものである。特に優れた研究・実践テーマの発表機会を次年度以降に行う検討を開始した。

平成28年度助成事業採択者一覧

平成28年10月30日現在

No	氏名	所属・役職	研究課題名
1	白石 優子	早稲田大学大学院	思春期の子守経験と援助希求に関するスキルとマインドセットの関連
2	遠藤 利彦	東京大学・教授	デジタル絵本の可能性と陥穽を探るー特に家庭における親子相互作用に着目してー
3	新原 道信	中央大学・教授	大学の「第三の使命（コミュニティを基盤とした調査と教育の試み）」に関するイタリアとの共同研究
4	池田 雅之	早稲田大学・教授	「子どもの貧困」対策と教育ボランティアにおける実践的改善策の提案・研究
5	明和 政子	京都大学・教授	母親の身体感覚の個人差が乳児の感情理解に与える影響
6	山崎 洋子	武庫川女子大学 ・客員教授	伝統文化を活かした「子育てプログラム」の開発ーインフォーマル教育の新しい可能性ー
7	片山 美香	岡山大学・准教授	保育士自身が親になる体験が保護者対応の質に及ぼす影響ー保育所保育士の保護者対応に関するキャリア発達モデルの構築に向けてー
8	尾崎 博美	東洋英和女学院大学 ・准教授	ケアリング関係に基づく共同体における「教えるー学ぶ」関係の実践研究ー感覚の共有と創造性を育む人間形成を目指してー
9	田中 友香里	京都大学・助教	身体接触を伴う母子間相互作用が乳児の感情表出に与える影響
10	大久保 圭介	東京大学大学院	「家庭ー地域ー学校」の連携が生み出す関係的な「知の様式」の研究ー「公ー私」をつなぐ「感覚とことば」の学びの分析ー
11	室町 さやか	山梨学院短期大学 ・専任講師	家庭における幼児の音楽活動とわらべうた教育に関する研究ー地域での子育て支援講座の実施を通じて
12	山本 敏子	駒沢大学・准教授	「家船」の根拠地・能地における子どもと家族の生活誌
13	芝田 圭一郎	大坂城南女子短期大学 ・専任講師	大学内子育てサロンにおける父親と幼児の「遊び」を通した多義的な関わりの質的研究
14	榎本 恵理	びわこ学院大学 ・准教授	幼児教育における言葉遊びの伝承
15	越山 桜子	フランクフルト大学 ・常勤講師	貝原益軒の「予めする」教育思想から見る近世日本の教育
16	畠山 大	岩手県立大学・講師	「生活」を通して育まれる「知」としての「ことば」の教育の研究ー「感覚とことば」を活かす教育者・学習者・教育空間の創出に向けてー
17	劉 郷英	福山市立大学・准教授	多文化・多言語環境に育つ子ども（CLD 児）の言語発達を促す学習支援プログラム開発研究
18	所 真里子	保育の安全研究・教育センター ・副代表理事	ISO/IEC ガイド 50「子どもの安全の指針」を活用したリスク教育の提案：子どものいる家庭向け教材の開発
19	武藤 世良	お茶の水女子大学 ・講師	親は子どもの尊敬感情をどのように育むのかー敬う心をめぐる家庭教育の実態の検討ー
20	日吉 和子	京都大学大学院 ・特定助教	幼児の主体的な意思決定がトイレトレーニングに与える影響
21	大戸 安弘	横浜国立大学・教授	近世民衆のリテラシー能力に関する実証的研究
22	日高 杏子	多摩美術大学 ・非常勤講師	日本の伝統色と色彩感覚に見る食育の影響
23	松浦 智和	名寄市立大学 ・専任講師	統合失調症患者の子育て、家庭教育の課題に関する研究ー子どもの生活状況を中心にー
24	小椋 たみ子	大阪総合保育大学 ・教授	子どもの生活環境、養育者の信念と子どもの言語発達
25	村井 尚子	京都女子大学・准教授	他者への empathy を育成する授業の探究ー子どもと学校について現象学的に考える

26	阿部 かほり	お茶の水女子大学院	妊娠期から出産後における女性の世代性の発達的变化ー関係性との関連からの検討ー
27	秦野 悦子	白百合女子大学・教授	0～3歳児の子育てにおける三世同居と核家族の比較
No	氏名	所属・役職	実践テーマ名
1	秋田 光彦	(学)蓮光学園 パドマ幼稚園園長	リズム・響き・動きに着目した日本の伝統的身体文化の、幼児教育・言語活動への導入についての実践的研究
2	小木曾 駿	NPO 法人 鎌倉てらこや・事務局長	鎌倉てらこやー早稲田大学・寺社・市民ボランティアの協働による地域コミュニティ再興事業ー
3	村上 佑介	大坂城南短期大学・専任講師	アートによる子育て支援を中心とした街づくり
4	八木 孝憲	社会福祉法人どろんこ会・課長	地域包括的な異年齢保育の実践による家族機能の代替可能性に関する研究ー保育園・家族・地域の協働を目指してー

<前年度助成の中間調査の実施>

平成 27 年度採択者 (24 件) は、4 月中旬までにアンケート調査を実施後、研究の進捗状況、予算使途の調査確認を行った。4 月から 6 月にかけては、都内周辺及び関西地区の主要採択者と大学・学会関係への訪問、視察を実施し (25 件)、現地調査と平成 28 年度の募集案内を併せて実施した。

次年度以降も現地視察を含む中間調査・ヒアリングを継続し、成果評価へのフィードバックを強化する方針を決定した。

<次年度事業計画への継続>

平成 28 年度の助成事業は、事業計画で策定した家庭・地域社会の教育に関する研究及び実践活動の活性化を促進する目的に沿って、前年までを上回る申請と有意な研究・実践の応募が得られた。

平成 29 年度助成に向けても、引続き教育関連学会への案内告知、研究・実践者への案内訪問を行って助成事業の広報を強化する方針を決定した。

(2) 平成 28 年度研修会事業 (定款第 4 条 1 項 2 号事業)

本事業は、家庭・地域社会の教育とりわけ日本の伝統的・文化的な家庭・地域社会の教育を現代の子育て・教育環境に反映させていくことを目的としている。子育て、幼児教育の幅広い研究者・実践者の講演・発表及び一般公衆への普及・啓発を企図し、年 2～3 回の開催を計画。

平成 28 年度は、前年度の未来教育シンポジウムの企画趣旨を継続し、日本の伝統的な子育ての視点から見た現代の家庭・地域社会の教育をテーマに第 4 回を 7 月に実施。地域コミュニティ、地域社会の教育実践をテーマとして 3 月に第 5 回を開催した。各回とも講演とパネルディスカッションを組み合わせたシンポジウム形式による開催として、参加者の理解と共有を深めることに努めた。

<平成 28 年度 第 4 回未来教育シンポジウム「親子と地域ー子育ての基盤再生にむけてー」>

広報用リーフレットを作成し、大学・短大・幼稚園・保育園等の関係各方面に DM、配布するとともに、財団ホームページ上に公開し、広く参加を呼びかけた (参加費無料)。

[主催] 公益財団法人前川財団

[後援] 早稲田大学、早稲田大学国際言語文化研究所、総合幼児教育研究会

[開催日時・場所] 平成28年7月30日(土) 公益財団法人和敬塾大講堂

[講演とプログラム]

講演 中桐 万里子氏(親子をつなぐ学びのスペース リレイト代表)

「子どもを育む親子のかかわり」

講演 弘田 陽介氏(大阪総合保育大学准教授)

「地域の子育て、共育の今ー地域社会と家庭と大学をつなぐ」

講演 辻本 雅史氏(国立台湾大学教授・京都大学名誉教授)

「子育ての基盤再生にむけて」

パネルディスカッション(コーディネーター 辻本 雅史氏)

[当日アンケート結果]

第4回未来教育シンポジウムアンケート集計(平成28年7月30日開催)							
Q1 シンポジウムの感想		Q2 興味ある講演		Q3 参加者の年代		Q4 シンポジウムの認知	
大変良い	50%	子育て実践研究	23%	60代	52%	その他・紹介	52%
良い	44%	地域教育	20%	50代	25%	財団HP	35%
普通	0%	家庭教育	17%	30代以上	17%	チラシ案内	10%
あまり良くない	2%	徳育	15%	40代	4%	友人・知人	2%
良くない	0%	江戸学	12%	20代	2%	幼稚園・保育園	0%
回答なし	4%	幼児教育・保育	10%	10代	0%	公共施設	0%
		その他	3%				

Q2 興味ある講演(その他)
孫育て、祖父母世代と子育て
コミュニティ開発、地域文化
体認論(藤樹学)
子育ての歴史、日本と海外の比較

Q5 今後の講演企画への意見
脳科学の知見から考える「子育て」「家庭教育」
脳科学・認知科学と幼児教育の関係
働く女性の育児、子育て中の父母の実際の声
専門家の子どもの「ネット社会との付き合い方」
子ども向け、子ども参加型のシンポジウム
日本の「幸福度」と幼児・初等教育

※本アンケートの意見は、研修会事業の基礎資料として利用し、今後のシンポジウム開催企画、講演の策定に反映させることを計画している。

<平成28年度 第5回未来教育シンポジウム「家庭・学校・地域を結ぶ子育て」>

広報用リーフレット、ポスターを作成し、大学・短大・幼稚園・保育園等の関係各方面へのDM、配布を実施した。案内は財団ホームページ上に公開し、併せてフリーペーパー広告、会場周辺地区への新聞折り込み、会場近隣公共施設(図書館)等でのリーフレット設置、近隣町内会の協力を得て掲示板のポスター等による広報も実施した(参加費無料)。

[主催] 公益財団法人前川財団

[後援] 早稲田大学、早稲田大学国際言語文化研究所

[開催日時] 平成29年3月18日(土) 公益財団法人和敬塾大講堂

[講演とプログラム]

講演 上江洲 慎氏(NPO法人鎌倉てらこや理事長)

「鎌倉てらこや活動について」

講演 池田 雅之氏（早稲田大学教授・鎌倉てらこや顧問）

「家庭・学校・地域を結ぶてらこやコミュニティ」

講演 横田 南嶺師（臨済宗円覚寺派管長）

「親子のきずな」

話題提供 滝澤 雅彦氏（公益社団法人日本教育会専務理事）

パネルディスカッション（コーディネーター 上江洲 慎氏）

[当日アンケート結果]

第5回シンポジウムアンケート集計（平成29年3月18日開催）							
Q1 シンポジウムの感想		Q2 興味ある講演		Q3 参加者の年代		Q4 シンポジウムの認知	
大変良い	74%	地域教育	22%	60代以上	28%	その他・紹介	33%
良い	19%	家庭教育	19%	50代	28%	前川財団 HP	28%
普通	3%	幼児教育・保育	14%	40代	21%	友人・知人	22%
あまり良くない	0%	徳育	14%	30代	19%	チラシ案内	17%
良くない	0%	子育て実践・研究	12%	40代	3%	幼稚園・保育園	0%
無回答	3%	江戸学	10%	10代	0%	公共施設	0%
		その他	8%	無回答	2%	無回答	0%
		無回答	1%				

Q2 興味ある講演（その他）	Q5 今後の講演企画への意見
食育、農業体験、理科教育	日本の伝統文化に基づく講演の組み入れ
貧困、世代間格差	地域社会における高齢者とのかかわり
教育、複眼の教育、おしえ育む、育てること	幼児・子ども達の育成に関わる活動の紹介
「きずな」について	子どもの反抗期に関するテーマ
子育てを行う親の教育	未来教育の概念に留まらない実例を
総合科学としての幼児教育	親の学びの場
放課後の児童支援	子育て中の母親など、女性ならではの知恵
心を育てる。子どもを伸ばす叱り方など	地域コミュニティの学校・家庭との関係性
複眼の教育	子育てとシニア世代の関わり

※本アンケートの意見は、研修会事業の基礎資料として利用し、今後のシンポジウム開催企画、講演の策定計画に反映させている。

<シンポジウム講演集の発刊>

財団の活動を一般社会に発信し、助成及び研修会事業の理解を深めることを目的として、第2回～第4回の未来教育シンポジウム講演集を作成し、第5回シンポジウムでの配布をはじめ、研究者・実践団体への無償提供を行った。平成29年度以降の事業活動においても研究者、シンポジウム出席者、教育関連学会、幼稚園・保育園を含む一般への送付や配布を実施し、財団趣意の周知を兼ねた広報活動の一環として利用することとした。

『これからの「子育て」を歴史にまなぶ』平成29年3月発行。非売品。

3 体制の整備

平成28年度は、前年度から継続して、助成事業及び研修会事業の適正な運営と、遵法体制の強化に注力した。内部規程については、評議員会運営規則の改定を行い、役員任期満了、新任に伴う選任、理事会、評議員会の的確な運営を行う方針のもとガバナンスの向上を図った。

また、職員の外部講習会等への参加も継続し、公益法人の法令、会計実務の精確な理解に努めた。

II 庶務の概要

(1) 理事及び監事に関する事項

平成29年3月31日現在

職名	常勤・非常勤	氏名	職業
理事長	常勤	佐野 誠	
理事	非常勤	野口 剛	帝京大学教授・日本社会科教育学会幹事
理事	非常勤	高木 秀輔	税理士
監事	非常勤	塩谷 一樹	公認会計士・税理士

(2) 評議員に関する事項

平成29年3月31日現在

職名	常勤・非常勤	氏名	職業
評議員長	非常勤	鮫島 元成	公益財団法人講道館指導部長
評議員	非常勤	森 一隆	税理士
評議員	非常勤	恩藏 直人	早稲田大学理事、商学大学院教授

(3) 選考委員に関する事項

平成29年3月31日現在

職名	常勤・非常勤	氏名	職業
選考委員長	非常勤	辻本 雅史	国立台湾大学教授・京都大学名誉教授
選考委員	非常勤	小泉 吉永	法政大学講師・往来物研究家
選考委員	非常勤	太田 素子	和光大学現代人間学部教授

(4) 職員に関する事項

平成29年3月31日現在

職名	常勤・非常勤	性別・人数	期間
事務局職員	常勤	(女) 1	平成28年4月1日～平成29年3月31日
事務局職員	常勤	(男) 1	平成28年4月1日～平成29年3月31日

(5) 諸規程に関する事項

平成28年度は、以下の規程を理事会・評議員会の承認を得て改定した。

規程の改定	理事会・評議員会	改定・施行日
評議員会運営規則	第1回評議員会	平成28年5月11日改定・施行
旅費規程	第5回理事会	平成29年3月22日改定、同4月1日施行

(6) 会議等に関する事項

<理事会>

① 平成28年度 第1回理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成28年4月28日	1. 平成28年度助成事業選考委員選任の件 2. 平成28年度第1回評議員会開催の件	全会一致で承認 全会一致で承認

② 平成28年度 第2回理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成28年5月18日	1. 平成27年度事業報告の件 2. 平成27年度決算報告の件 3. 評議員会開催の件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

③ 平成28年度 第3回理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成28年9月2日	1. 平成28年度助成事業の件 ・採択者、助成金、助成金総額	全会一致で承認

④ 平成28年度 第4回理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成28年10月12日	1. 寄附財産受入れの件	全会一致で承認

⑤ 平成28年度 第5回理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成29年3月22日	1. 平成29年度事業計画に関する件 2. 平成29年度収支予算に関する件 3. 事務所移転計画に関する件 4. 内部規程改定の件 ・旅費規程の改定について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

<評議員会>

① 平成28年度 第1回評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成28年5月11日	1. 監事選任の件 監事：塩谷一樹氏 2. 理事選任の件 理事：高木秀輔氏 3. 内部規程改定の件 ・評議員会運営規則の改定 報告 平成28年度事業計画及び収支予算の件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

② 平成28年度 第2回評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成28年6月2日	1. 平成27年度事業報告の件 2. 平成27年度決算報告の件 3. 評議員選任の件 恩藏直人氏（平成28年6月2日より4年間） 4. 理事選任の件 野口剛氏（平成28年6月2日より2年間） 高木秀輔氏（平成28年6月2日より2年間） 5. 監事選任の件 塩谷一樹氏（平成28年6月2日より2年間）	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

(7) その他重要事項

① 許可、認可、承認、証明に関する事項

連絡年月日	事 項	履 行 状 況
平成28年5月11日 平成28年6月2日	理事及び監事の変更登記申請 評議員の変更及び理事、監事の重任登記申請	平成28年5月11日 受付 平成28年6月2日 受付

② 契約に関する事項

なし

③ 寄付金に関する事項

平成28年4月5日 株式会社 前川製作所より¥40,000,000の寄付金を受領した。

平成28年10月12日をもって 前川正雄氏より寄附株式を基本財産として受入れることが第4回理事会において承認された。

④ 行政庁からの連絡事項等

平成27年6月18日付提出の事業報告にかかる提出書類につき、内閣府大臣官房公益法人行政担当室との連絡、確認により平成28年5月10日付で修正報告を行なった。

III. 業務の適正さを確保するための体制の整備についての決議の内容の概要

I - 3 の通り。

(1) 理事の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

監事による監査を受けている。

(2) 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

定款（平成 27 年 1 月 16 日改定・施行）第 40 条の定めに従い、理事会議事録を作成し、事務処理規程（平成 28 年 3 月 16 日改定・施行）第 11 条の定めに従い備置、保存している。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

資産運用規程（平成 26 年 5 月 28 日制定・施行）、就業規則（平成 28 年 3 月 16 日改定・施行）、個人情報保護規程（平成 26 年 5 月 28 日制定・施行）に定める管理を行っている。

(4) 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

監事による監査を受けている。

(5) 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

就業規則（平成 28 年 3 月 16 日改定・施行）を定め、当該規則を遵守し運営を行っている。

(6) 監事とその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

当該使用人が設置されていないため、該当なし。

(7) (6) の使用人の理事からの独立性に関する事項

当該使用人が設置されていないため、該当なし。

(8) 理事及び使用人が監事に報告をするための体制その他の監事への報告に関する体制

会計帳簿及び関係書類の提出を行っている。

(9) その他監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制

該当なし。

(10) 理事会設置一般財団法人以外の一般財団法人で理事が 2 人以上ある場合は、業務の決定が適正に行われることを確保する体制

理事会運営規則（平成 28 年 3 月 16 日改定・施行）の定めにより、当該規則を遵守し運営を行っている。

IV. 附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項

該当なし

以上